

2015年3月政情（内政・外交）

1 内政

（1）モンカダ・ルナ最高裁判事の逮捕

モンカダ・ルナ最高裁判事に対しては、高級マンション2件の購入に関し、不当利得、資金洗浄、公文書偽造及び公務員職権濫用の4つの容疑がかけられており、昨年10月より国会による調査の対象となっていた。2月23日、「モ」判事は4つの容疑のうち不当利得及び公文書偽造について認め、担当検事との間でマンション2件の押収、懲役5年及び同期間の公職停止を取り決めた司法合意がなされたところ、5日、本件の判事を担当する3名の議員により右合意を認める判決が下された。「モ」判事は同日午後、エル・レナセール刑務所へ移送された。

（2）多国間関係及び協力担当次官ポストの創設

16日、第二の外務次官として多国間関係及び協力担当次官ポストが創設され、マリア・ルイサ・ナバーロ同省官房長が任命された。同次官ポストは国際関係及び対外政策を管轄するとともに、パナマの国際協力の促進を担当するもの。

（3）環境省の発足

25日、バレーラ大統領は環境庁の省への格上げ法案に署名を行い、環境省が正式に発足した。初代大臣として、環境庁長官であったミレイ・エンダラ氏が就任した（注：母親が日本人であり、当館が把握する限り当国初の日系閣僚）。

（4）マルティネリ前大統領のCD党党首としての休職

25日、米国に滞在中のマルティネリ前大統領は、CD党党首としての休職を正式に発表した。「マ」前大統領は、休職期間中の党首代行として、ロムロ・ルークス同党書記長を指名した。

（5）職業外交官採用改革法案にかかる審議の中止

18日、パナマ外務省は、職業外交官の少なさを考慮し、勤務経験に応じた省員のキャリアへの編入ならびにキャリア採用基準引き下げ（採用試験受験資格を「国際関係学、法学、政治学、経済学、貿易学、国際ビジネス学、社会学、その他右に準ずる学士を有する者」とする）を含む職業外交官採用改革法案を国会に提出した。これに対して、パナマ大学公共政策学部国際関係学科の教授陣より、（外務省において優先的に採用されるべき）1000人以上の同学科卒業生が職を得られていない中、採用試験受験資格として要求される学士の種類を多様化することは不適切であるとして、同法案に反対する声が上がっていたところ、31日、国会外交委員会は同法案にかかる審議の中止を発表した。ルイス・エドゥアルド・キロス外交委員長は、本件に関しては今後サイン・マロ副大統領兼外務大臣及びパナマ大学教授陣の意見を参考にしつつ、より慎重に審議を行っていく旨発言した。

2 外交

(1) バレーラ大統領の IISS 太平洋対話（カルタヘナ・ダイアログ）ゲスト参加

8日、バレーラ大統領は IISS 太平洋対話（カルタヘナ・ダイアログ）閉会式にゲストスピーカーとして参加し、講演を行った。「バ」大統領は、国内犯罪や組織犯罪を駆逐するためには、国内・国家間ともに治安対策機関の連携を強化していく必要がある旨強調した。

また、「バ」大統領は小島順彦三菱商事会長と会談を行い、モノレール建設のための技術協力及びファイナンスにかかる日本政府との合意の締結につき、パナマ政府の関心を改めて表明した。

(2) バレーラ大統領の SICA・スペイン首脳会合出席

9日、バレーラ大統領はグアテマラにて開催された SICA・スペイン首脳会合に出席し、各国首脳との間で、中米地域における麻薬撲滅のための協力やインフラ事業の重要性につき話し合いを行った。

(3) サイン・マロ副大統領兼外務大臣の OAS 特別総会出席

18日、サイン・マロ副大統領兼外務大臣は、OAS 特別総会出席の機会に、カリコム加盟国代表と会合を行い、米州首脳会議への招待を改めて行った。また、パティーニョ・エクアドル外務大臣、コラレス・ホンジュラス外務大臣、ロドリゲス・ベネズエラ外務大臣、ミード・メキシコ外務大臣、ブリンケン米國務副長官との間で会合を行い、4月10～11日に開催される第7回米州首脳会議にかかる準備の進捗状況につき共有した。